

日本英学史学会 中国・四国支部

平成30年度 第2回(通算79回)研究例会(三原研究例会)のご案内

日 時： 2018年12月8日(土) 13:30 受付開始
会 場： 県立広島大学三原キャンパス(4号館4102会議室) 〒723-0053 広島県三原市学園町1-1
参加費： 会員、非会員とも無料

本年度第2回(通算第79回)研究例会を、12月8日(土)、県立広島大学三原キャンパス(広島県三原市)にて開催いたします。開催にあたり、会員の本岡直子先生に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

今回の研究例会では、地元・三原の郷土史に造詣の深い田邊達雄先生(呉工業高等専門学校名誉教授・元県立広島大学)にご講話をいただくほか、津山より山田宗八先生(山田共学道場)がお越しになりご発表くださいます。この機会に、ぜひとも三原の地にお集まりくださいますようお願い申し上げます。

研究例会のあとには、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

<< 研究例会プログラム >>

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

講 話(14:05~15:15)

「三原洋学所あれこれ」

田邊 達雄(呉工業高等専門学校名誉教授・元県立広島大学)

三原市の糸崎に明治初年に山陽地方で最初の英語の学校が開校したことを知る人は三原市内に住む人でも少ない。確かにそれを伝える資料があまり残っていないためでもあるというのが実情であろう。しかし、幸いなことに歴史と観光の会の会報『わが町三原』第176輯~第184輯に大谷和弘氏が詳しい『三原洋学所物語』を発表されている。この貴重な調査資料などを基に筆者は三原の英学史の観点から広島藩が英学に向かったながれを概観し、三原洋学所が開校するまでのわずか数ヶ月の開校期間ながらこの学校が三原の地に開設された成り立ちをたどってみたい。

研究発表(15:30~16:40)

『印版法術』英語受容の手引書」

山田 宗八(山田共学道場)

宇田川榕菴は『印版法術』の中で、「英学ハ蘭学ト同シ其呼法韻音ハ蘭ト同カラズ」と説明している。榕菴は「[aeiou]ハ韻母ナリ、JVハ副韻ナリ」と解説している。言語学の一領域、音素を対象にして、その種類、音声形式(Phonetic form)、特徴、結合上の規則性(logical form)、韻律など「音韻論」にも精通していたと思われる。『印版法術』の中で「舎密法ニ基キタル印版ノ法術」とあるようにオランダ語と英語の類似点を解説している。その歴史的意義を探る。

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

忘年懇親会(18:00~)

会場： くいもの屋「わん」三原駅前店 (JR三原駅新幹線口すぐ)
〒723-0014 広島県三原市城町1-4-1 イクス・テン4F 電話：(050)5347-1884
会費： 5,000円